

## 1 調査事件

都市基盤及び住環境の整備のさらなる充実について

## 2 調査概要

### (1) 久御山町（人口 15,555人）

#### ア デマンド乗合タクシーについて

久御山町は、宇治川と木津川に挟まれた豊かな自然に恵まれた平坦な地形のまちであり、バス交通を生かした便利なまちづくりを目指して「交通不便地の解消」、「公共施設への足の確保」、「高齢者の外出支援」を基本原則に平成16年4月から巡回バス「のってこバス」の運行を東西2ルートで開始した。その後、利用者数を伸ばすべく3回にわたる運行ルートの見直し、無料バスの日の設定、バスカード等高齢者助成金制度の実施などの方策を講じたが利用者は伸び悩み、加えて、事業に係る行政コストも肥大化し、費用対効果の面からも抜本的な見直しが求められていた。

このことから、「のってこバス」の見直し案を模索しつつ、平成23年度からは利用者の事前予約に応じる形で、運行経路や運行スケジュールをその予約に合わせて運行するデマンド乗合タクシーへの移行について検討を開始した。

同町は地域のタクシー会社に協力を仰ぎ、平成26年度地域公共交通会議で、デマンド乗合タクシーへの移行及び巡回バス「のってこバス」の廃止を説明し、協議を重ね、地域公共交通会議及び議会の承認を得た。平成27年10月には、町内各自治会に対して説明会を開催し、地域公共交通会議に確定内容を報告後、最終承認を得た後、国への申請手続きを経て、同年12月1日より運行を開始している。

デマンド乗合タクシーに移行することによるメリットとしては、以前の巡回バスは「空気を運んでいる」との意見があったが、予約がないときは運行しないため、そのような批判も解消できること。委託料は実際の利用時のメーター運賃により算定するため運行経費の削減が可能であること、また、タクシー車両は事業者所有のものを使用するため、車両購入費等の初期費用が抑えられること、目的地への最短ルートで移動するため、移動時間の大幅な短縮が可能であること、バスが通ることができなかった狭い場所でも運行でき、利用状況に応じた増設も可能であることが挙げられる。ただし、デマンド乗合タクシー「のってこタクシー」を利用するには、電話または登録申請書の提出をすることとなっており、

利用登録は町内に住民登録がある方で、小学生から利用登録が可能となっている。利用登録後に利用登録証が個人ごとに交付され、利用方法としては、乗車予定時の1週間前から1時間前までに電話にて予約し、電話予約受付時間は午前8時から午後8時までとなっている。ただし、午前8時台に利用する場合は、前日の午後8時までに予約が必要となる。さらに、乗降場所は路線バスとの競合を避けるため、指定されたバス停から指定できるバス停へと制限されている。

そのため、路線バスへの乗車が困難な方を対象に、「のってこタクシー」制度を活用し、より乗車しやすいよう、令和元年5月から「のってこ優タクシー」としての運行も開始している。運行内容は、路線バス運行ルートにかかる停留所の利用制限をなくし、いずれの停留所間でも利用することができることとなっている。

今後の取組としては、利用登録者数の増加及び各路線の運行状況や地域住民の意見を集約し、各路線の見直し等を行うことにより利便性を高め、地域住民が外に出る機会を促進し、健康寿命や経済活動の活性化を図っていくこととしている。

## (2) 京町家作事組

### ア 京町家作事組について

一般社団法人京町家作事組は、平成11年4月1日に設立され、京町家の改修・修繕に携わる設計者・施工者が集まる技術者団体として、京町家の保全・継承に取り組んでいる。

同法人が所在している京都市は、多くの神社仏閣、世界遺産を有し、年間7,000万人を超える観光客が訪れる日本有数の観光地であり、その中でも京町家は京都という都市の骨格を形づくってきた最も基本的な建築様式であり、京都のまちの歴史・文化の象徴として、現在もなお、多くの市民の住まい及び仕事場として活用されている。

京町家作事組の特徴的な取組として、京町家の継承や取組を広く伝えるため、完成見学会や体験イベントなどを実施しており、伝統構法による改修を基本として、安全性を確保し、京町家が持つ本来の構造性能を損なわないように改修を行っている。さらに、京町家または伝統的木造建築物の技術的研究や文化的研究に携わる研究者への技術的協力、連携も行っている。

令和3年3月末時点での京町家の保全・継承につながる取引や改修実績は合計で26件あり、その中でも京町家作事組の事務局がある釜座町町

家は、明治20年に斧屋家から釜座町に寄贈され、今日まで釜座町町内会所有の町会所として地蔵盆など地域の伝統的催事場所として用いられ、修復によって従来の町内会所として、また京町家改修における費用や作業内容などの説明の場として、そして京町家の伝統や豊かな暮らしの文化を伝え、地域の次世代の担い手を育成するための京町家普及・啓発活動拠点として機能している。この修復には、米国のワールド・モニュメント財団を通してフリーマン財団の協力を受け、釜座町町家会、特定非営利活動法人京町家再生研究会及び公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターの協働によって実現されている。

今後の課題として京町家の再生を推進していくには、財政面や建築基準法との兼ね合いなどの法律的問題が挙げられ、各地の団体が協働し、問題解決に向けて困難な現状などを話し合うことで京町家の保存・継承につながっていくことが期待される。

### (3) 神戸市（人口 1,511,043人）

#### ア ウォークブルなまちづくりについて

**神戸市**は、市民と民間事業者及び行政が協働で都心の再生を実現し、世界に貢献できる都市として発展していくことを目指して2015年9月に都心の未来の姿「将来ビジョン」及び三宮周辺地区の「再整備基本構想」を策定している。また、都心の三宮は海と山に囲まれ、駅とまちが近いという立地条件を生かし、駅に出た瞬間に訪れた人々が自然とまちへ誘われる「美しき港町・神戸の玄関口」を新たなまちづくりのコンセプトとして掲げ、人が主役のまち、居心地のよい歩きたくなるまちを目指して再整備の取組を進めている。

まず、三宮駅周辺地区全体の魅力向上のために、えき（6つの駅とバス乗降場）とまちをつなぐ空間を「えき～まち空間」と名付け、誰にとっても使いやすい、神戸の玄関口にふさわしい空間として官民連携して整備している。

次に、同空間の核となる三宮交差点を中心に税関線と中央線の一部を人と公共交通優先の空間とする三宮クロススクエアの実現に向けては、駅前広場の再編・拡充等を行うとともに、通過交通を外周道路に誘導し、交通状況や社会情勢の変化を見極めながら段階的に整備を進めており、現況では10車線ある道路の交通の流れをシミュレーションしている。第1段階としては2029年度を目標に開業予定としているJR新駅ビル開業と同時期に6車線に減線し、第2段階としては大阪湾岸道路西伸部供用

後に3車線まで減線することとしており、空いた空間を利活用し、にぎわいの創出を実現させようとしている。

次に、三宮駅周辺におけるにぎわいの創出については、2022年4月から駅直結型の複合パークとしてJR三宮駅南側駅前広場に「&3 PARK」として、イベントが可能な大型レンタルスペースの機能を持つプロモーションエリア、開放感ある空間を活用した飲食エリア、常設型モビリティビジネスモールが体験できる、滞留空間を兼ねたパークエリアとしたメインエリアがオープンし、にぎわいを創出している。

また、新たな中長距離バスターミナルの整備も行っており、西日本最大級の中・長距離バスターミナルを整備し、三宮駅周辺に点在する約1,700便を新バスターミナルに集約することとしている。本事業は、2020年4月に国直轄道路事業として事業化され、神戸らしさが演出された充実したバス待合空間の配置とともに、二次交通として、多様なモビリティなども利用できる交通結節点を整備しており、I期ビルの工事完了予定が2027年頃となっている。

そのほかにもJR三ノ宮駅新駅ビルの開発や税関前歩道橋のリニューアル等多くの整備計画が予定されており、神戸の都心である三宮、旧居留地、北野、元町など、神戸らしい魅力的な拠点がモザイク状に存在している。

今後は官民が連携し、それぞれの拠点のさらなる魅力向上を図るとともに、都心内の回遊性を向上させる施策への取組や、駅周辺だけではなく都心全体の活性化が期待されている。